

第3回近江地域活性研究会の概要

期日：平成22年7月21日(水)

場所：大学サテライト・プラザ彦根

■この研究会について

- この研究会を立ち上げるに際して、2回の準備委員会を開く中で、理念的な視点からと、即地的・実践的な視点の双方向から地域活性化を考えていこうということになった。
 - 1回目（A：理念的テーマ）

事例紹介 新潟市都市政策研究所報告書「”田園環境都市”をめざして」
発表者：阪口 博司さん（公務員）
 - 2回目（B：即地的・具体的テーマ）

都市との移住・交流を通じた地域づくり ～湖北地域を中心とした事例報告～
発表者：近藤 紀章さん（研究員）
- スケジュールとしては、次回・次々回はゲストスピーカーを招いての研究会、12月には大縁日祭においてどなたかを呼んでの基調講演と当研究会の中間成果発表会を予定しており、候補者の選定を行いたい。
- また、最終的には、ご参加いただいている方には何らかのかたちでレポートをだしてもらいたいと考えている。ボリュームはそんなに沢山とは考えていないが、それも原稿として出してもらって成果物としたい。

■課題整理について

●AテーマとBテーマの関連について

- AとBのテーマを交互にするというのはおもしろいと思う。振り幅ができて、地域活性化について様々な見方ができるのではないか。他方で、AとBをどのようにつなげていくのが難しい。
- AとBのテーマをつなぐものとして幸福のものさしという話をしてきた。市民の方の視点もいれて、滋賀のスケールを発信できればと考えている。今までの考え方を少しかえてみる。例えば成長戦略ではなく、成長なしでやっていくという考え方。
- モデルのない時代にもものさしをこういう場で議論すれば新しいものが出てくるのではないか。
- いびつなものでもものさしを作ってみて、議論してみればおもしろいのではないか。

●コミュニティ（Aテーマ）について

- コミュニティとは何なのか、原点から、「在所」から考えてみたい。第2回目の研究会において方法としての地域という話があったが、方法としてのコミュニティというものを考えてみたい。メリット論でも目的論ではない方法論としてのコミュニティを議論。

●移住交流（Bテーマ）について

- 具体的なテーマでは、移住交流という枠組みの中でワークショップを大量に実施しているが、ともすればそれに追われてしまう。なぜ移住交流なのかという部分がおろそかになるが、行政の視点だけでは全体像がつかめない。色々な意見を聞いて自分の立ち位置を再確認したい。
- 前回の報告では、中山間地域というところに絞って議論しているので、最終的にもそこにしぼっていくという方向がよいのではないか。

●地場産業と地域活性化（Bテーマ）について

- 地場産業や地域産業は地域の生活とつながりが深いのが、地場産業と地域の活性化が結びついていないので、そこをどうにかつなげられないか。
- 滋賀県では中山間地域と工業地帯が近いので、うまくその接点をみつけられれば、今までにないアイデアが出てくる可能性があるのではないか。

●その他

- ・ 他の取組事例を聞くよりも滋賀県の目指すべき方向を共有すべきではないか。
- ・ 滋賀はほどほどに都会で、ほどほどに田舎を目指すべきではないか。
- ・ 琵琶湖環境科学センターの「2030年、滋賀県における自然共生型社会の創成」における滋賀の目標とシナリオをたたき台にして、ハピネスを共有できるものをつくることが出来ないか。

■ゲストスピーカーについて

- ・ 事例の紹介という点について、成功例をパターン化すると元々ある価値をつぶしてしまふこともあるので、そのあたりをよく理解している報告者が望ましい。
- ・ 彦根の繊維関係で地場産業の担い手として、若手でおもしろいことをやっている人をここに連れてきて、話をしてもらいたい。
- ・ ゲストスピーカーの選定については、講師のスケジュールの都合等もあるので、事務局で最終的には決定する。

※事務局で後日検討し、次回・次々回は以下のとおり開催することに決定。

ゲストスピーカーの都合により、AテーマとBテーマの順番を入れ替え。

- ・ 第4回目 日 時：8月31日(火) 18:30～
(Bテーマ) 場 所：大学サテライト・プラザ彦根 (JR彦根駅)
 ゲスト：梶誠さん (H21地域づくり総務大臣個人表彰)
- ・ 第5回目 日 時：9月14日(火) 19:00～
(Aテーマ) 場 所：草津市立まちづくりセンター (JR草津駅)
 ゲスト：木村正裕さん (フィンランド大使館 上席高務官)

ゲストスピーカーの経歴等

【梶誠】

H21地域づくり総務大臣個人表彰。過疎化の抑止と地域の活性化のため、平成10年、定住施策として都市部よりIターン者を募り、農ある暮らしの実現をめざす高嶺下地区開発がスタート。その推進のために組織された「埜快委員会」の代表として、イベントやワークショップ、定住希望者との話し合いなどを中心に進め、地元住民と定住者の気持ちを大切にしながら双方の仲人役を務める。

【木村正裕】

フィンランド健康福祉センタープロジェクト (フィンランド共和国が日本国内において産学官連携で進めている、高齢者介護と地域振興を目的とした一連のプロジェクト) の活動の中心人物として活動。これらの活動に関連して、最近では健康、福祉、介護、環境をキーワードとする地域活性化に関するフィンランドの取組を日本に紹介している。